

白馬岳		
北	ア	柳又谷、鑓温泉

1995年5月27日～28日

メンバー：佐藤 晶彦 他1名

27日（晴のち曇） 昨年、後ろ髪を引かれる思いで上部のみの滑降で登り返した柳又谷源頭部を再び訪れた。

今年は残雪が多いとは言うものの、さすがに5月下旬になると、猿倉周辺の融雪は進んでいる。朝の冷たい空気の中、スキーを背負って猿倉山荘前を出発、金山沢出合付近から雪が着いてきて、スキーの重さから解放される。相変わらず、小石や小枝、泥等のゴミの多い大雪渓下部である。デブリで凹凸した斜面は、滑るのにも、登るのにも苦勞する。点々と登っていく登山者が見え、ますますの良い天気だ。時折、杓子側から落石があり、怪我人も出た様子である。

岩室からひと登りした岩陰で小休止、風が冷たくカッパを着込む。村営頂上宿舎が見えてから長く感じるのはいつものことだ。稜線の登山道には雪がなく、稜線の東側の残雪の上を登り、白馬山荘直下まで行くことができた。

1泊2食8000円の宿泊手続きを済ませ、テレビのある談話室でダラダラと過ごす。天気も良く、時間があり過ぎるので、今日のうちに柳又谷を滑ってしまおうと支度をして山荘を出る。

山荘のすぐ下からスキーを履き、稜線西側の残雪を拾いながら滑っていくと、すんなりと柳又谷源頭部に出ることができた。山の上は、昨年5月上旬並みの残雪量である。

いよいよ広大な斜面の大滑降である。もう少し傾斜が欲しいところだが、それは贅沢というものだ。白馬岳、旭岳

の岩壁を左右に見ながら、大斜面のド真ん中を快適に飛ばす。気温が低いので雪も緩み過ぎることなく、滑り易い雪質だ。このスケールの大きさは、チャチなゲレンデでは絶対に味わうことはできない。雪質を選べば、山スキーの初心者にも充分楽しめる場所だろう。

山荘を出発して15分、アッと言う間に標高2350m地点まで滑り降りてしまった。この先は、谷が狭くなり快適ではなさそうだ。山荘まで標高差300mの登り返しとなる。午前中の疲れがあるためか、この登りは辛く、下りの6倍の1時間半もかかってしまった。

28日（晴） 金山沢滑降も考えたが、温泉の誘惑には勝てず、鑓温泉経由の下山とする。

天気が良いので、頂上を往復、いつ来てもすばらしい展望で時間の経つのを忘れてしまう。今日も気温は低く、雪面は堅く締まっている。

山荘のすぐ下でスキーを着け、村営宿舎までわずかではあるが、朝の堅い斜面の滑降を楽しむ。ここから、杓子岳、鑓ヶ岳へとスキーを背負っての縦走となる。背負ったスキーは、重さが何倍にも感じられるが、左右の山の景色に助けられて進んで行く。旭岳南面や杓子岳西面のスロープもスキーには快適そうだが、いずれも登り返しが辛いだろう。

杓子岳は西側を巻くが、ここの雪が堅く滑落注意である。面倒なのでアイゼンを着けずに歩いたが、横着はしない方が安全だ。

鑓ヶ岳から少し下った所から滑降開始、上部の広い斜面から沢筋に滑り込んでいくと鑓温泉である。大休止で一風呂浴びる。刺すことはないものの、小さな虫が沢山いて少々不快だ。しかし、残雪の山を眺めながらの温泉は気

持ちが良い。

杓子沢に出会うまでは雪質が悪くなり、デブリもあって滑りにくい。小日向のコルまでの登りも思ったよりも時間がかからず、猿倉台地まで最後の滑降を楽しみ、無事、猿倉の駐車場に戻った。

—タイム：27日 猿倉715—金山沢出合
755/805—白馬山荘1215(柳又谷2350mまで滑降15分、登り90分)

28日 (頂上往復後)白馬山荘715—杓子沢のコル825/40—鑓ヶ岳915/20—鑓温泉1015/1135—小日向のコル1230/45—猿倉1340

